

総合教育部案内

Guide for Students of School of General Education

令和6（2024）年度入学者用

For Students Enrolled in 2024

本冊子は、令和6年度「文系一括、理系一括」入試による入学者が、学類に移行するまでの間に所属する総合教育部の案内です。

『共通教育科目 履修案内』、各学域・学類が発行している履修案内・手引き・ハンドブック等と併せて活用してください。

金沢大学 国際基幹教育院 総合教育部

School of General Education, Institute of Liberal Arts and Science,
Kanazawa University

ごあいさつ

金沢大学への御入学、おめでとうございます。ようこそ総合教育部にいらっしゃいました。

大学に入学した皆さんはすでにご存知と思いますが、日本の多くの大学は複数の学部・学科から構成され、それらは特定の教育目的を持ち、それに基づいた教育課程が用意されています。特定の学部を選ぶことは特定の教育課程を選ぶことであり、特定の職業を選ぶことに繋がります。一方「もう少し学びや経験を深めてから職業を決めたい」という考え方はレイト・スペシャライゼーション (late specialization) と呼ばれ、世界を見渡した時、決して少数派の考え方ではありません。皆さんもそのように考えたのではないのでしょうか。金沢大学総合教育部はまさにこの要望に応えるべく平成30年に開設されました。皆さんはその7期生です。まずは総合教育部（文系・理系一括）を選んで入学したご自身の選択に自信と誇りを持ち、その初志をこれからも大切にしてください。

これから1年間、皆さんは総合教育部の学生として共通教育科目を中心に学びながら、進むべき学類を決めていくこととなります。ぜひ様々な学問分野に興味・関心を持ち、視野を広げ、ご自身が何に対してより強く惹かれるか、何が向いているか、その問いを繰り返しながら学修を進めてください。大学での学びは高校までの学びと大きく異なります。多くの問題はオープンエンドであり、正解はひとつではなく、問題解決に至る道筋もひとつではありません。答えを見出すことより、問いそのものを見出すことに意味がある場合もあります。ただ知識を増やすだけでなく、ぜひ「モノの見方」も深めてください。

そのなかで、ぜひ皆さんの同期、総合教育部の友人との語らいを大切にしてください。なぜならそれが皆さんの大きな財産になるからです。学問分野は人間が人為的に定めたに過ぎず、一方社会で生じる様々な問題は決して特定の学問分野に限定・局在する訳ではありません。総合教育部の同期は1年後、異なる学類を選択していきますが、将来、再び協力して社会問題に取り組むことになるかもしれません。そのとき、進路や社会問題についてともに語り合い、悩んだ時間が大きな財産になることでしょう。これは他の学類では得難い、総合教育部ならではの魅力、強みといえます。

総合教育部では、担任（アドバイザー教員）やアカデミック・アドバイザーを中心に、皆さんの学修や進路選択を支援する体制を整えています。この案内とともに、それらの体制を活用してください。総合教育部学生としてのこの一年が、皆さんの進むべき道を見出していく素晴らしいものとなることを期待しています。

令和6年4月

国際基幹教育院長・総合教育部長
垣内 康孝

I 履修、単位認定

1 共通教育科目

1年次は、「共通教育科目」を中心に履修します。「共通教育科目」には、「導入科目」「GS科目」「GS言語科目」「基礎科目」「初習言語科目」「自由履修科目」の6つの科目区分があります。詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

- (1) **導入科目**は、入学者が大学に慣れ、大学生らしい学修態度や生活態度を身につけて、充実した大学生活を送ることを目的として開講しています。また、各学類の紹介など、進路選択に向けた説明も目的としています。

導入科目は、「**大学・社会生活論**」、「**データサイエンス基礎**」、「**地域概論**」(各1単位)の3科目で、すべての学類で必修です。総合教育部学生対象の授業を開講していますので、履修してください。

なお、専門教育科目の時間割によっては、2年次以降での修得が困難となる場合もありますので、1年次に必ず履修してください。

- (2) **GS科目**は、本学独自の教育方針である「金沢大学<グローバル>スタンダード (Kanazawa University “Global” Standard ; 以下「KUGS」)」に基づいた授業科目です。

KUGSは、①自己の立ち位置を知る、②自己を知り、自己を鍛える、③考え・価値観を表現する、④世界とつながる、⑤未来の課題に取り組む、⑥新しい社会を生きる、の6項目から構成しています。この6項目で示す能力を獲得するために、1群から6群までの科目群を設定し、それぞれの群に4～6つのGS科目を配置しています。1群から5群は各群から2単位以上、計12単位を修得(1～5群のうち2つの群で3単位修得)してください。6群は3単位を修得してください。GS科目全体では計15単位を修得してください。ただし、単一の群で3単位を超える修得単位は自由履修科目に算入し、1群から5群で12単位を超える修得単位も自由履修科目に算入します。また、GS科目全体で15単位を超える修得単位も自由履修科目に算入します。詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

- (3) **GS言語科目**は、共通教育科目の言語科目のうち、全学類で必修としている科目です。「GS言語科目(英語)」と留学生を対象とした「GS言語科目(日本語)」があります。

「GS言語科目(英語)」は、「**Practical Englishコース**」(4単位)、「**EAPコース**」(4単位)が、すべての学類で必修です。

「GS言語科目(日本語)」は、日本語を母語としない留学生(正規生)を対象とした科目です。

- (4) **初習言語科目**は、GS言語科目(英語)(日本語)以外に共通教育科目で開講している言語科目です。ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、ギリシア語・ラテン語、スペイン語、(ロシア語)があり、すべての学生が履修できます。なお、初習言語科目は、移行する学類によって単位修得要件が異なります。詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

- (5) **基礎科目**は、数学、物理学、化学、地学の分野に属する科目で、理系の学生及び融合学域スマート創成科学類を希望する文系の学生を対象にしています。

理系では、「**微分積分学 I A**」、「**微分積分学 I B**」、「**線形代数学 I A**」、「**線形代数学 I B**」、「**物理学 I A**」、「**物理学 I B**」、「**化学 I A**」、「**化学 I B**」の8科目を含む10科目が移行点対象科目ですので、必ず履修してください。(p.14を確認)

理系では、学類移行後の履修に配慮し、「**統計数学 A**」、「**統計数学 B**」、「**物理学実験**」、「**化学実験**」、「**地学 I A**」、「**地学 I B**」は、CAP制(各学期又は各クォーターの履修上限)除外科目としています。十分な学修時間を確保できるように履修科目を決定してください。

文系では、基礎科目はCAP制除外科目ではありません。履修登録では、原則、融合学域の学生を対象とした基礎科目を選択してください。1年次第1クォーター、第2クォーターで融合学域以外の学生を対象とする基礎科目履修を希望する場合は、基幹教育学務係(p.20を確認)へ申し出た上で、履修登録をしてください。1年

次第3クォーター、第4クォーターでは、当該授業担当教員に連絡をとり、許可を得て、履修登録をしてください。

なお、**基礎科目は、移行する学類によって単位修得要件が異なります。**詳細は、『**共通教育科目 履修案内**』で確認してください。**移行希望学類の必修科目は、1年次に履修することを勧めます。**

- (6) **自由履修科目**は、(1)～(5)の区分以外のその他の共通教育科目を指します。また、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位が自由履修科目として算入されます。

2 専門教育科目

- (1) 学域GS科目「アカデミックスキル」「プレゼン・ディベート論」

すべての学類で必修です。総合教育部学生対象の授業を1年次に履修してください。修得単位は、学類移行後、所属学域の当該科目として取り扱います。

- (2) 上記(1)以外の専門教育科目

総合教育部学生は、基本的に各学類に移行した後で専門教育科目を履修します。専門教育科目の履修の有無が学類移行に影響することはありません。

ただし、学類によっては1年次に修得が望ましい専門教育科目があります(下表で確認)。

なお、融合学域、人間社会学域及び理工学域における1年次に履修が可能な専門教育科目は次ページの表のとおりです。

医薬保健学域の専門教育科目は、1年次には履修できません。ただし、医学類では、一部の専門教育科目を移行前学修として、1年次の春季休業期間に開講しますので、別途案内します。専門教育科目の履修方法は、学類移行後に個別に対応します。

1年次に修得が望ましい専門教育科目

| | | |
|--------|--------------------------------|--|
| 融合学域 | 共通 | アントレプレナー基礎、イノベーション基礎、数理・データサイエンス基礎及び演習、デザイン思考 |
| | 先導学類 | デザイン思考演習 |
| 人間社会学域 | 共通 | 学域GS科目(1年次後期から配当、詳細は次ページの表を確認) |
| | 人文学類 | 人文学序説A・B・C・D 博物館概論A・B(学芸員資格取得を希望する場合のみ)、歴史学入門(歴史学プログラムを選択する場合)、考古学・文化資源学概説A・B(考古学・文化資源学プログラムを選択する場合) |
| | 法学類 | 法学概論、政治学A・B、民事法入門A・B、憲法(人権)A・B、English for Legal Studies |
| | 経済学類 | 経済数学、基礎統計学、ミクロ経済学I、日本経済論、経営学概論 |
| | 学校教育学類 共同教員養成課程 | 教職とこれからの教育、教職と学校、教育の思想と歴史(西洋)、教育の思想と歴史(日本)、特別な支援を要する子どもの理解、特別支援教育概論、野外体験活動I、インクルーシブ教育基礎演習I・II、国語科基礎A・B、家庭科基礎A・B、体育科基礎A、その他1年次配当の選択必修科目 |
| | 地域創造学類 | 地域創造学I～III、地域情報分析概論I・II |
| | 国際学類 | 国際学入門、国際学入門E、日本文化、日本文化E、異文化理解1、異文化理解2 |
| 理工学域 | 共通 | アントレプレナーシップ論*(物質化学類は2年次履修) |
| | 数物科学類 | 数学物理学基礎演習A、数学物理学基礎演習B、情報・計算科学基礎 |
| | 物質化学類 | 物理化学基礎A、物理化学基礎B、有機化学基礎A、有機化学基礎B 1年次配当の学域GS科目(学域俯瞰科目)1単位 |
| | 機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類 | 微分方程式及び演習、先端テクノロジー概論A、先端テクノロジー概論B |
| | 地球社会基盤学類 | 微分方程式及び演習 |
| | 生命理工学類 | 生命理工学概論A、生命理工学概論B、生物科学概論A、生物科学概論B |

*は、履修登録の上限(CAP制)の対象としない授業科目(p.10を確認)

1年次に履修が可能な専門教育科目

| 融合学域 | 1年次配当の科目※ |
|--------|--|
| 人間社会学域 | 学域GS科目(学域俯瞰科目、学域データサイエンス応用系科目)のうち1年次配当科目、その他各学類専門基礎科目及び専門科目のうち『学域学類からの案内』に記載の「1年次履修可能な専門教育科目」※ 注)科目詳細は各学類ハンドブック等にて確認ください。 |
| 理工学域 | 1年次配当の科目 ※ |

- ※ 1年次に履修が可能な専門教育科目は、各学類の授業時間割表で確認してください。
国際基幹教育院Webサイトで専門教育科目の授業時間割表を閲覧できます。
国際基幹教育院Webサイト>新入生・在学生の方へ>総合教育部>学域学類の情報
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/> 総合教育部/学域学類の情報/

3 学域学類からの案内

(1) 総合教育部（文系）学生対象

主に、専門教育科目に関する案内です。【 】内は、専門教育科目の卒業要件を記載しています（【必】…必修 【選必】…選択必修 【選】…選択）。共通教育科目の卒業要件及びその他詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

記号の説明

専…専門教育科目

融合学域

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

履修が望ましい科目等

- ・基礎科目及び初習言語科目は、学類の修得すべき単位数及び条件を確認の上、履修してください。スマート創成科学類の卒業要件は、基礎科目8単位です。2年次以降であっても基礎科目を履修できるよう、時間割は可能な範囲で配慮しますが、自身の適性を知るために、少しでも1年次で履修することを勧めます。
- ・1年次配当の専門教育科目は総合教育部（文系及び理系）学生を想定したものではありませんが、興味を持った学生、希望する学生には、アントレプレナー基礎【必】、イノベーション基礎【必】（学域GS科目）、数理・データサイエンス基礎及び演習【必】（学域GS科目）、デザイン思考【必】（学域GS科目）、デザイン思考演習【必】（先導学類のみ）の履修を勧めます。
- ・これらの専門教育科目の履修人数を制限する場合があります。
- ・これらの専門教育科目はすべて2年次でも履修できます。

人間社会学域

履修にかかる通知などは、アカンサスポータルや掲示板等で通知するので、こまめに確認してください。

学域GS科目〔専門教育科目〕

人間社会学域の「学域GS科目」は、どの学類でも卒業要件として8単位必修（アカデミックスキル及びプレゼン・ディベート論2単位分とデータサイエンス応用系科目2単位以上を含む）としています。各学類ハンドブックに掲載している人間社会学域規程別表第3-1（第6条関係）学域GS科目単位配当表の科目他、「学域GS俯瞰発展系科目群」、「学域データサイエンス系発展系科目群」及び「GS科目発展系科目群」の科目も学域GS科目に含まれますが、具体的な履修可能科目は、掲示及び人間社会学域Webサイトの時間割のページに公表します。2年次からは本格的に各学類の専門教育科目の履修が始まるため、1年次からの履修を推奨します。

なお、1年次に履修した学域GS科目は、以下の枠内に記載のとおり、科目の読替えを行います。科目の読替えを行った場合、当該科目の科目区分が変更となり、他の「学域GS科目」の履修が必要となる場合がありますので、その点に注意して履修計画を立ててください。

経済学類移行時に読替えを行う「学域GS科目」

専基礎統計学、専マクロ経済学Ⅰ、専ミクロ経済学Ⅰ、専経済学史、専日本経済論、専経営学概論、専経済史

経済学類に移行した場合、経済学類の専門基礎科目に読み替えます。

総合教育部文系学生は、学域GS科目の時間割番号「基礎統計学（時間割番号10082）」「マクロ経済学Ⅰ（時間割番号10083）」「ミクロ経済学Ⅰ（時間割番号10084）」「経済学史（時間割番号10085）」「日本経済論（時間割番号10086）」「経営学概論（時間割番号10087）」「経済史（時間割番号10088）」で履修登録してください。

国際学類移行時に読替えを行う「学域GS科目」

専異文化理解1、専異文化理解2、専国際学入門E、専日本文化E

国際学類に移行した場合、科目区分「学域GS科目」ではなく、科目区分「専門基礎科目」又は「専門必修・選択必修科目」の「専異文化理解1」、「専異文化理解2」、「専国際学入門E」、「専日本文化E」に読み替えます。

総合教育部文系学生は、学域GS科目の時間割番号「異文化理解1（時間割番号10019）」「異文化理解2（時間割番号10020）」「国際学入門E（時間割番号10090）」「日本文化E（時間割番号10091）」で履修登録してください。

地域創造学類以外への移行時に読替えを行う「学域GS科目」

専地域創造学Ⅰ、専地域創造学Ⅱ

移行前に地域創造学類の専門教育科目「地域創造学Ⅰ・Ⅱ」を修得し、他学類へ移行した場合は、「学域GS科目」として読み替えます。

学域GS言語科目〔専門教育科目〕

人間社会学域の「学域GS言語科目」は原則2年次以降の開講ですが、外部検定試験を利用した単位認定や英語による海外研修を利用した単位認定は1年次から手続きすることができます。

公認心理師養成プログラム

心の健康問題に対し、他の関係者とも連携しながら心理に関する支援を行う国家資格である「公認心理師」の養成プログラムを履修できます。詳しくはそれぞれの学類のハンドブックで確認してください。

人文学類

プログラム選択時の選考方法

人文学類では2年次から各プログラムを選択して、プログラム内で提示する「標準的履修モデル」を参考にしながら自分の関心に合わせて専門教育科目を学びます。それぞれのプログラムには、専門教育を円滑に行うために設定された受入可能人数（適正上限数）があり、選択決定を行う際、志望者がその上限を超えた場合には1年次第4クォーターまでに履修した科目のGPA値を用いて選考を行います。なお、休学等のために学類への移行が入学後2年目以降になった場合でも、プログラム選択は入学年度を基準に決定します。その他のプログラム選択のルールの詳細は、毎年行う説明会で説明するので、人文学類への移行を考えている場合は必ず出席してください。

履修が望ましい科目等

人文学類では、卒業要件に初習言語科目の単位（1言語8単位以上）を含むため、人文学類を志望する人は、1年次から初習言語科目を履修しておくことを強く勧めます。

- ・専人文学序説A・B・C・D【必】
- ・専博物館概論A・B【選】（学芸員資格取得を希望する場合）
- ・専歴史学入門【選必】（歴史学プログラムを選択する場合）
- ・専考古学・文化資源学概説A・B【選必】（考古学・文化資源学プログラムを選択する場合）

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

法学類

履修が望ましい科目等

Ⓔ法学概論【選必】、Ⓔ政治学A・B【選必】、Ⓔ民法入門A・B【選必】、Ⓔ憲法（人権）A・B【選必】、
Ⓔ English for Legal Studies【必】

1年次履修可能な専門教育科目 Ⓔ法曹実務【選】、Ⓔ基礎演習【選】、Ⓔ入門ロースクール【選】

※Ⓔ基礎演習【選】はWebで履修登録ができないため、履修希望の学生は基幹教育学務係に問い合わせてください。

経済学類

履修が望ましい科目等

1年次配当専門教育科目は、経済学や経営学の入門及び基礎的な科目の一部です。移行の判断や2年次以降の履修計画立案の参考になるはずですが、その意味でこれらの科目の履修は望ましいと考えます。

1年次履修可能な専門教育科目

Ⓔ経済数学【選】、Ⓔ基礎統計学【選必】、Ⓔミクロ経済学I【選必】、Ⓔ日本経済論【選必】、Ⓔ経営学概論【選必】

学校教育学類共同教員養成課程

学校教育学類共同教員養成課程は、教員規模で全国最少でありながら、全国トップレベルの採用率・就職率を誇っています。そして、各教員が専門にかかわらず、教員養成に関心を持ち、実習の指導等も熱心に行っていることが、その実績を支えています。令和4年度から富山大学教育学部学生と一緒に学ぶ共同教員養成課程としてスタートしました。学校教育学類共同教員養成課程学生は、取得する免許状に関係なく1年次より4年間一貫のユニット（1ユニット1学年4～5名、計18ユニット）に所属して様々なユニット活動に取り組みます。学校教育学類共同教員養成課程に移行する学生は2年次よりユニットに編入されます。従来の専修という枠組みに代わり、1年次から4年次までの学生を、希望校種や教員免許状とは関係なく、ランダムに割り振ったユニットという学生集団に属します。各ユニットには複数の担当教員を配置し、担当教員は原則として同一ユニットを継続的に担当します。ユニットによって、指導教員から4年間一貫とした指導を受けられます。1ユニットは16～20名程度です。富山大学にも同様のユニットがあり、富山大学のユニットと交流する活動も行います。

履修が望ましい科目等

学校教育学類共同教員養成課程では、小学校教諭第一種免許状に加え、特別支援学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状又は中学校教諭二種免許状の合わせて2校種以上の免許状取得を卒業要件にしているため、1年次から必修科目、選択必修科目が多数配当されています。

学校教育学類共同教員養成課程に入ることを検討している学生はアドバイジング・ルーム2もしくは国際基幹教育院のWebサイトにある、「学校教育学類共同教員養成課程ハンドブック」で確認してください。

1年次履修可能な専門教育科目

Ⓔ教職とこれからの教育【必】、Ⓔ教職と学校【必】、Ⓔ教育の思想と歴史（西洋）【必】、Ⓔ教育の思想と歴史（日本）【必】、Ⓔ特別な支援を要する子どもの理解【必】、Ⓔ特別支援教育概論【必】、Ⓔ野外体験活動I【必】、Ⓔインクルーシブ教育基礎演習I・II【必】、Ⓔ国語科基礎A・B【必】、Ⓔ家庭科基礎A・B【必】

※【選必】は「学校教育学類共同教員養成課程ハンドブック」で確認してください。

地域創造学類

履修が望ましい科目等

「Ⓔ地域創造学I～III」【必】を推奨します。学類入学者対象に1年次に設定している必修科目は「Ⓔ地域創造学I～III」のみです。また、学域GS科目のデータサイエンス応用系科目のうち、地域情報分析概論I・II【選必】の履修を推奨します。

1年次履修可能な専門教育科目 Ⓔ地域創造学I・II・III【必】

国際学類

プログラム

国際学類では2年次から複数のプログラムに所属して専門教育科目を中心に学び、3年次進級時に各自が学びたいプログラムを1つに絞ります。

履修が望ましい科目等

専国際学入門【選必】、専国際学入門E(10090)【選必】、専日本文化【選必】、専日本文化E(10091)【選必】、専異文化理解1(10019)【選必】、専異文化理解2(10020)【選必】の履修を推奨します。また、外国語検定試験を積極的に受験することを強く推奨します。特に国際政治Eプログラム、国際経済Eプログラム、英語圏研究Eプログラム希望者は、3年次進級時にTOEFL-iBT 72以上、TOEFL-ITP 530以上又はIELTS 5.5以上のスコアを提出する必要があります。英語圏研究プログラム希望者は、3年次進級時にTOEFL-iBT、TOEFL-ITP又はIELTSのスコアを提出する必要があります(英語圏研究プログラム配属にあたってはスコアに基準はありません)。さらに、卒業要件に初習言語科目の単位を含むため、1年次から初習言語科目を履修することを強く勧めます。

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

[注] 1年次配当の専門教育科目の授業時間割 閲覧先:

国際基幹教育院Webサイト>新入生・在学生の方へ>総合教育部>学域学類の情報

<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/総合教育部/学域学類の情報/>



(2) 総合教育部(理系) 学生対象

主に、専門教育科目に関する案内です。【 】内は、専門教育科目の卒業要件を記載しています(【必】…必修 【選必】…選択必修 【選】…選択)。共通教育科目の卒業要件及びその他詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

記号の説明

共…共通教育科目 専…専門教育科目 教…教育の基礎的理解に関する科目等

融合学域

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

履修が望ましい科目等

- ・基礎科目及び初習言語科目は、学類の修得すべき単位数及び条件を確認の上、履修してください。
- ・1年次配当の専門教育科目は総合教育部(文系及び理系)学生を想定したものではありませんが、興味を持った学生、希望する学生には、アントレプレナー基礎【必】、イノベーション基礎【必】(学域GS科目)、数理・データサイエンス基礎及び演習【必】(学域GS科目)、デザイン思考【必】(学域GS科目)、デザイン思考演習【必】(先導学類のみ)の履修を勧めます。
- ・これらの専門教育科目の履修人数を制限する場合があります。
- ・これらの専門教育科目はすべて2年次でも履修できます。

理工学域

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

1年次に修得が望ましい専門教育科目 アントレプレナーシップ論【必】(物質化学類は2年次履修)

数物科学類

履修が望ましい科目等

- ・1年次配当の専門教育科目は総合教育部(理系)学生を想定したものではありませんが、興味を持った学生、希望する学生には、専数学物理学基礎演習A【選必】、専数学物理学基礎演習B【選必】、専情報・計算科学基礎【選必】(3科目すべて学域GS科目)の履修を勧めます。
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。
- ・次の科目は2年次以降の専門教育科目履修との兼ね合いから、可能であれば1年次に履修しておくことを勧めます。

教員免許を取得希望の場合→教教師論

中学校理科の教員免許を取得希望の場合→**因**化学実験

情報の教員免許を取得希望の場合→**専**情報・計算科学基礎【選必】(学域GS科目)、**専**計算科学【選必】

物質化学類

履修が望ましい科目等

- ・1年次配当の学域GS科目(学域俯瞰科目)を1単位分履修することを強く推奨します。
- ・**専**物理化学基礎A【必】、**専**物理化学基礎B【必】、**専**有機化学基礎A【必】、**専**有機化学基礎B【必】
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。
- ・教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(『共通教育科目履修案内』参照)と**因**教師論及び**因**化学実験(学類の必修科目)を1年次に履修することを強く推奨します。2年次4月上旬に教職ガイダンスを改めて実施します。

機械工学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**微分方程式及び演習(時間割番号20301.005)【選】(Q3、Q4火曜2限)、**専**先端テクノロジー概論A【選必】(学域GS科目、Q3火曜5限)、**専**先端テクノロジー概論B【選必】(学域GS科目、Q4火曜5限)
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

フロンティア工学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**微分方程式及び演習(時間割番号20301.005)【選必】(Q3、Q4火曜2限)、**専**先端テクノロジー概論A【選必】(学域GS科目、Q3火曜5限)、**専**先端テクノロジー概論B【選必】(学域GS科目、Q4火曜5限)
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

電子情報通信学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**微分方程式及び演習(時間割番号20301.005)【選】(Q3、Q4火曜2限)、**専**先端テクノロジー概論A【選必】(学域GS科目、Q3火曜5限)、**専**先端テクノロジー概論B【選必】(学域GS科目、Q4火曜5限)
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

地球社会基盤学類

履修が望ましい科目等

- ・**因**データサイエンス基礎、**因**地域概論、**因**物理学I A、**因**物理学I B、**因**化学I A、**因**化学I B、**因**地学I A、**因**地学I B、**因**微分積分学I A、**因**微分積分学I B、**因**線形代数学I A、**因**線形代数学I Bの単位を修得しておかないと2年次開講の必修科目等が取れず留年する可能性があります。
- ・**因**物理学実験と**因**化学実験は選択必修であり、どちらかの単位を修得する必要があります。
- ・基礎科目として、前述の必修科目、選択必修科目のほかに、4科目(4単位)、合計で16単位が必要です。
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。
- ・一級建築士受験資格を得るためには、建築学副専攻を修了する必要があります。
- ・教育職員免許状の「理科」の免許と「工業」の免許では、必要な科目が異なります。「理科」の教育職員免許状には**因**教師論が必要です。中学校1種免許状(理科)を取得する場合は、**因**物理学実験/**因**化学実験/**因**生物学実験が必要です。
- ・**専**「微分方程式及び演習」(選択必修基礎)は1年次後期の履修を勧めますが、2年次後期でも履修できるようにしています。コース配属後の時間割で確認してください。

生命理工学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**生命理工学概論 A【選】、**専**生命理工学概論 B【選】、**専**生物科学概論 A【選必】、**専**生物科学概論 B【選必】
(生命理工学類の内容を理解する上で参考になりますので履修を薦めます。)
- ・GS科目「**医**細胞・分子生物学」を履修することを望みます。
- ・教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法及び同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。生命理工学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』及び『共通教育科目履修案内』に記載しています。中学校1種免許状(理科)を取得する場合は、**医**物理学実験、**医**化学実験及び**医**地学実験の修得が必要です。地学実験については、理工学域2年次以上を対象とした科目での修得を推奨します。

[注] 1年次配当の専門教育科目の授業時間割 閲覧先：
国際基幹教育院Webサイト>新入生・在学生の方へ>総合教育部>学域学類の情報
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/総合教育部/学域学類の情報/>



医薬保健学域

1年次履修可能な専門教育科目 収容人数等の関係上、履修可能な専門教育科目はありません。

医学類

履修が望ましい科目等

- ・医学類を目指すならば、例えば、GS科目の「**医**細胞・分子生物学」を履修する等、生命科学を学ぶことを望みます。
- ・共通教育科目の履修は、移行点対象科目及びその他医学類で定める修得すべき共通教育科目のうち導入科目を含めて36単位以上の修得及び専門教育科目「**専**アカデミックスキル」「**専**プレゼン・ディベート論」を総合教育部1年次に修得してください。未履修や単位不足があると、医学類に移行した時点で、次年度、3年次に進級できないことが確定する場合があります。
- ・移行前学修として、1年次の春季休業期間に一部の専門教育科目を開講します。詳細は、別途案内します。

薬学類

履修が望ましい科目等

- ・**医**統計数学A、**医**統計数学B
- ・**専**アカデミックスキル」「**専**プレゼン・ディベート論」以外の専門教育科目は、学類移行後の2年次から履修します。
- ・共通教育科目は可能な限り1年次に修得してください。導入科目及び「**専**アカデミックスキル」「**専**プレゼン・ディベート論」に未履修や単位不足があると2年次以降での修得が困難となる場合があります。

保健学類

履修が望ましい科目等

- ・本来1年次で修得すべき「**専**アカデミックスキル」「**専**プレゼン・ディベート論」以外の専門教育科目は、学類移行後の2年次で履修し、履修登録単位数の上限超過は保健学教務委員会で審議します。
- ・共通教育科目は可能な限り1年次に修得してください。導入科目及び「**専**アカデミックスキル」「**専**プレゼン・ディベート論」に未履修や単位不足があると2年次以降での修得が困難となる場合があります。

4 履修登録上限 (CAP制)

各クォーターに履修登録できる科目の上限単位数は、12単位です。

ただし、共通教育科目において次の科目は、履修登録の上限には算入しません。

- (1) 集中講義として開講する授業科目
- (2) いしかわシティカレッジにおいて開講する授業科目
- (3) 放送大学において開講する授業科目
- (4) 基礎科目（統計数学A、統計数学B、物理学実験、化学実験、地学I A、地学I B）。ただし、総合教育部（理系）に所属する者が履修する場合に限る。

なお、専門教育科目においても履修登録の上限に算入しない科目があります。p.3記載の1年次に修得が望ましい専門教育科目では、理工学域アントレプレナーシップ論が該当します。その他、履修登録の上限に算入しない科目は、各学域・学類の履修案内・手引き・ハンドブック等で確認してください。

また、履修登録許可単位数の上限は、前学期のGPAが2.7以上の場合に撤廃します。

5 外部試験による成績評価・単位認定制度

1年次のGS言語科目（英語）は、一定のスコア等の基準を満たせば、「S」で成績評価を受けることができます。また、初習言語科目及び単位を修得できなかった場合のGS言語科目（英語）は、外部試験のスコア等により単位認定を受けることができます。（詳細は『共通教育科目 履修案内』を確認してください。）

ただし、GS言語科目は、6科目が移行点対象科目であるため、必ず6科目以上の授業科目を履修してください。（p.14を確認）

6 入学前の既修得単位認定

本学入学前に大学等で修得した単位を、本学の単位として認定することができます。認定できる単位数の上限は、共通教育科目と専門教育科目を併せて60単位です。

共通教育科目は入学当初に国際基幹教育院長あてに、専門教育科目は、学類移行後に所属学域長あてに申請してください。

なお、当該科目は移行点対象科目に含めることができません。所定の移行点対象科目は必ず授業科目を履修してください。（p.14 p.15を確認）

7 英語学修とTOEIC-IP試験

本学では、英語学修の継続的強化を目的とし、GS言語科目（「Practical English」と「EAP」）の開設や、専門教育科目における学域GS言語科目の開設、海外体験活動の支援等を実施しています。

また、本学は卒業要件として、原則として在学中の英語外部検定試験複数回受験と学類ごとに所定のスコア取得を義務付けています。

総合教育部学生は、入学後すぐに、1回目のTOEIC-IPテストを受けます。1年次第4クォーターでは、2回目のTOEIC-IPテストを受けます。

英語学修のためのe-learning講座、語学検定試験受験対策講座、附属図書館やライティングセンターでの学修支援等、皆さんの継続的な英語学修に向けたサポートを実施していますので是非利用してください。

8 先導STEAM人材育成プログラム (KU-STEAM)

先導STEAM人材育成プログラムは、全学域学生対象の文理融合教育を実践する特別プログラムです。自身の専門分野に軸足を置きながら、積極的に他分野の知見を深め、異分野・異文化協働を実践することによって、未来課題の解決に挑戦する、先導STEAM人材の育成を目的とします（プログラムの詳細はp.21を確認）。

9 データサイエンス特別プログラム

「数理・データサイエンス・AI」は、もはや特別な知識ではなく、日常の生活、仕事等の場においてそれらを「使いこなすこと」が当たり前の世界が既に到来しています。本プログラムを修了することで、このことを理解し、実際に、数理・データサイエンス・AIの恩恵を享受するための、基礎能力を身に付けることができます(プログラムの詳細は、金沢大学Webサイトトップ→「教育・学生支援・学生活動」→「授業・履修」→「特長のある教育プログラム」→「データサイエンス特別プログラム」から確認)。

10 教育職員免許状の取得

(1) 取得可能な免許状の種類

本学で取得できる教育職員免許状は、次表のとおりです。

融合学域、医薬保健学域では、教育職員免許状を取得できません。ただし、医薬保健学域保健学類(看護学専攻)の取得可能な免許状は、p.12 (4) ③で確認してください。

移行先の学類で取得可能である免許状の種類：人間社会学域

| 学域 | 学類 | 中学校教諭一種 | 高等学校教諭一種 | その他 |
|--------|--|------------------------------|-----------------------------------|--|
| 人間社会学域 | 人文学類 | 国語、社会、英語 | 国語、地理歴史、公民、英語、中国語 | |
| | 法学類 | | 公民 | |
| | 経済学類 | 社会 | 公民 | |
| | 学校教育学類 共同教員養成課程 (小一種免許、および中二種免許1教科、幼稚園二種免許または特支免許二種免許の二校免許取得を 保証する) | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語 | 幼稚園教諭一種、小学校教諭一種、特別支援学校教諭一種(聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者) |
| | 国際学類 | 国語、社会、英語 | 国語、地理歴史、公民、英語 | |

注) 人間社会学域地域創造学類では、教育職員免許状を取得できません。

移行先の学類で取得可能である免許状の種類：理工学域

| 学域 | 学類・コース・プログラム | | 中学校教諭一種 | 高等学校教諭一種 | |
|-----------|--------------|-------------|---------|----------|----|
| 理工学域 | 数物科学類 | | 数学、理科 | 数学、理科、情報 | |
| | 物質化学類 | 先端化学コアプログラム | 理科 | 理科 | |
| | | 応用化学コアプログラム | 理科 | 理科、工業 | |
| | 機械工学類 | | | 工業 | |
| | フロンティア工学類 | | | 工業 | |
| | 電子情報通信学類 | | | 工業 | |
| | 地球社会基盤学類 | 地球惑星科学コース | | 理科 | 理科 |
| | | 土木防災コース | | | 工業 |
| | | 環境都市コース | | | |
| | 生命理工学類 | 生物科学コース | | 理科 | 理科 |
| 海洋生物資源コース | | | | | |

(2) 免許状取得に必要な科目

教育職員免許状を取得するには、①共通教育科目として開講される「教育職員免許法施行規則第66条の

6に定める科目」及び原則として②各学域・学類で開講される「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」の単位を修得しなければなりません。

(3) 1年次に履修可能な科目

① 共通教育科目

共通教育科目で、所属や免許種別等に関係なく修得しなければならないものは、「日本国憲法概説2単位」、「保健体育関連科目から2単位」、「外国語コミュニケーション関連科目から2単位」、「データサイエンス基礎1単位」「情報の科学1単位」の計8単位です。詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

② 各学域・学類で開講される科目

「教師論」もしくは「教職とこれからの教育」並びに「教職と学校」は、教員免許状の種別に関わらず必須です（高一種（工業）は、「教科に関する専門的事項」に定める科目の修得した単位で代替できます）。1年次後期に、文系では学校教育学類共同教員養成課程対象の「教職とこれからの教育」「教職と学校」とそれ以外の学類対象「教師論」、理系では理工学域対象「教師論」を、それぞれ開講します。学校教育学類共同教員養成課程への移行を予定する学生は、「教職とこれからの教育」並びに「教職と学校」を、学校教育学類共同教員養成課程以外への移行を予定している学生は「教師論」を履修してください。

なお、「教師論」は卒業単位に算入できませんが、学校教育学類共同教員養成課程に移行した場合の「教職とこれからの教育」並びに「教職と学校」への読み替え（卒業要件に算入）については、担当係に問い合わせてください。

総合教育部学生が履修できる「教師論」 ※以下の科目は、履修登録許可単位数の上限（CAP制）に含みません。また、卒業要件等に含みません。

| 総合教育部 | 授業科目名 | 時間割番号 | 開講期 | 対象学生 |
|-------|-------|-------|------|--------------------------------|
| 文系 | 教師論 | 95000 | 1年後期 | 人間社会学域(学校教育学類共同教員養成課程を除く。)学生対象 |
| 理系 | 教師論 | 90101 | 1年後期 | 理工学域学生対象 |

(4) その他

①学校教育学類共同教員養成課程希望者を除く文系の学生で、教育職員免許状の取得を希望する場合は、人間社会学域で開催される教職ガイダンス（1年次前期5月頃開催予定）に出席してください。免許状取得に係る詳細は、ガイダンスで配布する『教職ハンドブック』を熟読して確認してください。また、学校教育学類共同教員養成課程を希望する学生は、人間社会系事務部学生課教務・学生支援担当（人間社会第2講義棟1階）に確認してください。

②理系の学生で教育職員免許状の取得を希望する場合は、『理工学域履修案内』で詳細を確認してください。不明点は各学類の教職担当教員や理工系事務部学生課教務係（自然科学本館G2階）に確認してください。

『理工学域履修案内』

<https://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/south/gakusei/oshirase/risyuuanannai/b2024.pdf>

③医薬保健学域保健学類（看護学専攻）では、卒業時に保健師免許を有する者として、養護教諭二種免許状を都道府県教育委員会に申請したい場合は、教育職員免許法及び同施行規則に定められた単位（「10（3）①共通教育科目」で記載の単位）の修得が必要なため、可能な限り1年次で修得してください。

Ⅲ 支援体制

1 アカデミック・アドバイザー（進路・学類選択支援）

総合教育部では、アカデミック・アドバイザーという専門の教員が学生の進路・学類選択をサポートします。

アカデミック・アドバイザーは、皆さんが興味・能力を最大限に活かせる学類・進路を選択できるよう様々なサポートを行います。進路に悩む時には、アカデミック・アドバイザーから各学類の情報や説明を受けたり、一人ひとりに沿った履修計画を立てられるよう履修支援を受けることができます。また、研究室訪問の情報提供や、希望に応じて、各学類の移行支援の連絡担当教員等との面談支援も行います。

アカデミック・アドバイザーは、総合教育部学生のアドバイザー・ルーム1・2（総合教育1号館2階204・205号室）でアドバイザーを行います。アドバイザー・ルーム2（総合教育1号館2階205号室）には各学類の履修案内・手引き・ハンドブック等を備えています。

アカデミック・アドバイザーは、教員室にいる時間帯もありますので、気軽に教員室も訪ねてください。

アカデミック・アドバイザー

| 氏名 | 部屋番号 | 所属 | 担当 |
|--------|----------|-------|----|
| 西川 未来汰 | 1号館7階712 | GS教育系 | 文系 |
| 小笠原 知子 | 1号館7階714 | GS教育系 | 理系 |

※オフィス・アワーは別途お知らせします。

2 総合教育部担任教員（学生生活等に関する相談）

総合教育部では、入学後に、文系一括入試による入学者を4クラスに、理系一括入試による入学者を4クラスに編成します。各クラスに担任教員を配置し、学修上や生活上の相談にあたります。

わからないこと、困ったことがあるときには、まず担任教員に連絡してください。

令和6年度国際基幹教育院総合教育部担任教員

| クラス | 氏名 | 部屋番号 | 所属 |
|-----|------------------|------------------------|--------|
| 文系1 | ウシ 翁 ウエイ 瑋 | 1号館6階605 | GS教育系 |
| 文系2 | 小高 敬寛 | 1号館7階706 | GS教育系 |
| 文系3 | 河田 英介 | 1号館4階410 | 外国語教育系 |
| 文系4 | ラナー・ジェイコブ | 1号館4階409 | 外国語教育系 |
| 理系1 | 川越 謙一 | 自然科学5号館 数学・管理棟3階376 | GS教育系 |
| 理系2 | 佐藤 圭 | 1号館7階709 | GS教育系 |
| 理系3 | 野中 雄大 | 1号館7階710 | GS教育系 |
| 理系4 | 山村 公恵 | 1号館5階503 | 外国語教育系 |

※1号館：総合教育1号館

3 学修支援

アカデミック・アドバイザーや担任教員以外にも、様々な学修上の支援体制があります。

基礎科目（数学・物理学・化学）リメディアル教育：総合教育部学生のための補習教育担当教員がいます。高校で習っていない科目や苦手な科目の学修支援を受けることができます。

附属図書館学修支援：普段の学修で困ったことがあれば図書館でも学修支援を受けることができます。中央図書館ポラリススタジオには、ライブラリー・ラーニング・アドバイザー（LiLA）と呼ばれる学生サポーターがいます。また、専門の教員の指導の下、ライティング・センターも設置されています。支援内容は、大学の学びに必要な基本的なアカデミックスキル（レポートの書き方（日本語・英語可）、資料や文献の探し方）、講義の受け方など多岐に及びます。その他学修支援に関するイベント情報は、図書館 Web サイトやアカンサスポータルメッセージを確認してください。

その他の相談窓口：本学では、上記以外にも「なんでも相談室」「保健管理センター学生相談室」「障がい学生支援室」などの学生支援窓口があります。以下の一覧表、金沢大学 Web サイトの「教育・学生支援・学生活動」に掲載の『きいつけまっし』、『学生便覧』を確認してください。

【総合教育部学生サポート体制（相談窓口）一覧】

◎：相談推奨窓口 ○：相談窓口 ○：内容に応じて相談

| 基幹教育学務係 総合教育部学生の総合窓口 p.20 | | | | |
|---|--------------------------------------|---------------------------|-----------------------------------|----------------------|
| 相談・質問内容 | アカデミック・アドバイザー | 担任教員 | なんでも相談室 保健管理センター 障がい学生支援室 | リメディアル教育担当教員 LiLA |
| 学類移行 移行点、移行までの流れ(学類選択、志望調査、進路登録)、履修計画等 | ◎ アカデミック・アドバイザーを通して学類連絡担当教員への相談も可 | ○ 移行に関する基本的な情報提供 | | |
| 学生生活 大学での学修全般、休・退学、お金、生活、人間関係、病気・怪我等 | ○ 休・退学が移行に及ぼす影響に関する相談 | ◎ 内容によっては他クラスの担任への相談も可 | ○ 原則、学生からの直接連絡。担任教員を通しての相談予約も可 | |
| 心の相談 心の不調、生きづらさ、障がいや体調不良等で必要となる支援・相談 | ○ 移行にかかわる不安等の相談 | ○ 困った時最初のコンタクトパーソン | ◎ 原則、学生からの直接連絡。担任教員を通しての相談予約も可 | |
| 学修の相談 理系基礎科目等の学習法、学習支援の利用相談等 | ○ アドバイザー担当科目の相談 | ○ 担当科目、専門分野についての相談 | | ◎ 学生から直接連絡を取る |

授業に関する質問等は、各授業担当教員に連絡してください。

Ⅳ 学生生活

1 学生への連絡

大学が学生に対して行う連絡等（公示、呼び出し、授業時間割、履修上の指示、休講、補講、奨学金授業料免除関係等）は、原則として掲示、アカンサスポータルにより行います。

これらの通知を見なかったために不利益が生じても救済しないので、掲示板やアカンサスポータルからの連絡を常に確認するよう習慣づけてください。掲示板は、A4講義室前に設置しています。

また、国際基幹教育院総合教育部Webページにも、専門教育科目の時間割などの情報を掲載していますので、確認してください。

2 住所・姓名等の変更

本人及び父母等の現住所、電話番号は緊急連絡時に必要なので、変更があった場合は、速やかにアカンサスポータルから変更を届けてください。

また、本人の姓名に変更があった場合は、速やかに基幹教育学務係に届けてください。戸籍上の氏名や性別とは異なる氏名・性別を授業等で使用したい場合は、基幹教育学務係に相談してください。

なお、父母等の姓名に変更があった場合は、アカンサスポータルから変更を届けてください。

3 休学・復学

病気や経済的な理由等により、1か月以上修学を中止する必要がある場合は、休学することができます。その場合には、必ず、担任教員に相談したうえで、基幹教育学務係で用紙を受け取ってください。

休学の期間は、休学の開始日からその年次の各クォーター、各学期又は学年の終わりまでです。ただし、総合教育部において、2年間を超えて休学することはできません。休学期間が終了した場合は、終了の翌日から復学となります。予定どおり復学する場合は、復学の届け出は不要です。ただし、初めに届け出た休学期間中に復学する場合には、復学の届け出が必要です。復学時にも担任教員が面談を行います。

なお、休学した場合には、2年次の4月に学類移行はできません。

4 退学

退学をしようとする場合は、必ず、担任教員に相談したうえで、基幹教育学務係で届出用紙を受け取ってください。

5 留学

留学する場合は、在学の身分のまま渡航することも、休学して渡航することも可能です。ただし、在学したまま留学した場合の学類への移行時期は2年次の4月です。留学時に休学するかどうか、担任教員等とよく相談して決めてください。

6 転学類

学類移行後の転学類は、各学域・学類で定めています。詳細は、各学類担当の学務係又は教務係で確認してください。

7 事故などの報告

万一、学内外を問わず交通事故等の事故又は事件に遭ったときは、必ず担任教員又は基幹教育学務係に速やかに詳細を届け出てください。

8 総合教育部窓口

学務部 基幹教育支援課 基幹教育学務係（総合教育講義棟2階）

TEL：076-264-5758 E-mail：stgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp

総合教育棟 平面図

(総合教育2号館・体育館へは、3階に上がって渡廊下で)

2 階

履修関係掲示板
授業日程
講義室変更
休講・補講
試験
履修登録等

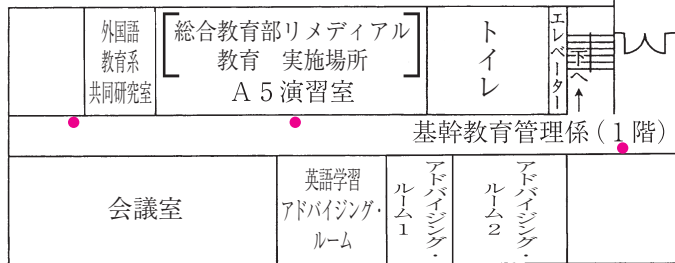
基幹教育学務係

執務時間

月～金の8時30分～17時

◆ レポートボックス

| 室番 | 室名 | 収容人数 |
|-----|---------|------|
| 241 | A 1 講義室 | 262人 |
| 246 | A 2 講義室 | 40人 |
| 247 | A 3 講義室 | 64人 |
| 249 | A 4 講義室 | 64人 |
| 210 | A 5 演習室 | 60人 |



総合教育1号館

大学会館へ

● 消火器
* 掲示板

※ A 4 講義室は、授業に使用しない時間帯は、学生自習室として利用できます。